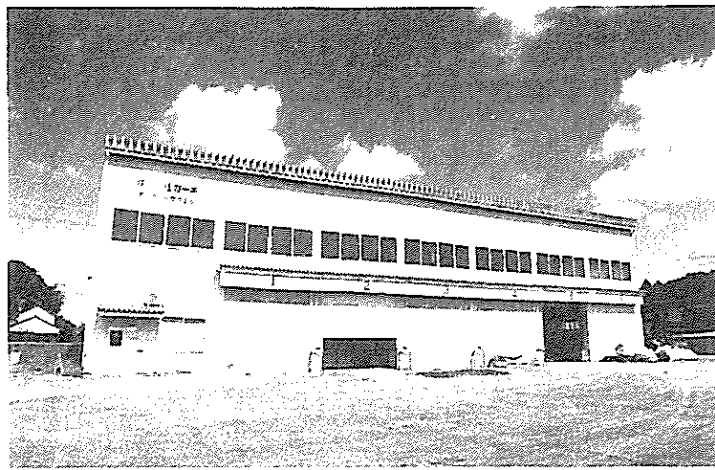


カーキ

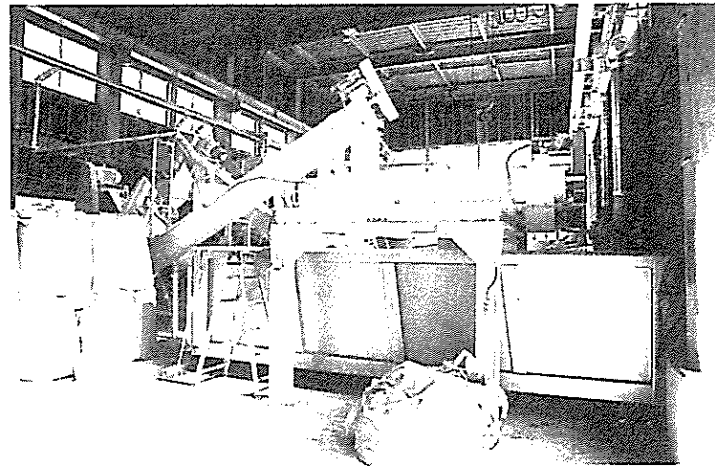
廃石膏ボード リサイクル事業に参入

再生ボードへの再利用を推進

カーキ（福井県越前市、垣内拓社長）は今年6月から新たな取り組みとして、石膏ボ



施設の外観



石膏ボードを徹底分離・回収

ドのリサイクル事業に参入した。福井市内に

敷地面積約2400平方

メートルの廃石膏ボード

リサイクル施設「布施田

工場」（〒0776-5006）

を新設。再生ボードへの再利用

を推進し、リサイクル

として、増加し続け

ている廃石膏ボードの

循環利用の一翼を担っ

その処理の必要性や将来性に関心をもち、参

入を決意したという。

創業以来、公共・商業施

設や工場、プラントな

プラントの施工はリ

ヨーション（富山市）が

手掛け、1時間当たり

8トンの処理能力を持つ

石膏分離機を採用。ス

コットイクイップメン

ト社（アメリカ）の石

膏分離機「ターボセパ

レーター30」とピン

ダー社（オーストラリ

アの振動ふるい機等を組

み合わせ、効率的な石

膏ボードの処理を実現

した。

処理フローは、まず

搬入された廃石膏ボ

ードを重機で碎いてホ

ッパに投入。その後、

2軸のスクリーンコン

ベアで粗破碎しながら

石膏分離機に定量投入

していく。高速回転す

るシャフトに付帯した

パドルで叩いて紙と石

膏粉に分離した後、磁

選機などを経て、振動

ふるい機で粉の粒度を

調整する流れ。

石膏粉は、吉野石膏

（東京・千代田）の製

造工場でリサイクルボ

他、土壌改良材として

活用。紙くずは製紙会

社で再生紙の原料とし

り、今後、1カ月当た

り500トをベースと

界のことについては勉

強中だ。メーカーや排

出業者など関係者と綿

密にコミュニケーション

をとりながら、少し

から積極的に受け入

れていく方針だ。

布施田工場の責任者

べた。